

自然と歴史、それに関わる人間の営みを感じる

北谷町谷区



黄葉の谷のブナ林 (11月上旬)

谷区の魅力を語る上で外せないのがブナ林です。このブナ林はなだれの発生を防いだり、勢いを弱めたりするための保安林として、谷区の人に大切に守られてきました。

今は保安林としての役割だけでなく、新緑や紅葉、四季折々の林床の草花は訪れた人の目を楽しませてくれます。



恐竜時代の地層(手取層群)の岩肌を流れ落ちる不動滝



伊良神社のある場所は、戦国時代に谷城が築かれ一向一揆の拠点でした。その周辺には過去に使われていた石畳道があり、当時の生活の様子をしのべます。

また、石畳道を通って5分ほど歩くと不動滝に行くことができます。昨年8月の大雨の影響でそれ以前とは様子が変わりましたが、そこも含めて地球の活動をダイナミックに感じることができます。

受け継がれる伝統行事

谷地区では、「はやし込み行列(8月15日)」や「お面さんまつり(2月中旬)」といった伝統行事が今も受け継がれています。



岩屑なだれ堆積物が地すべりを起こしてできた湿原

池ヶ原湿原

池ヶ原湿原は約1.5haの面積があり、県内に2つある大規模な湿原の一つです。1歩足を踏み入れたとたん、湿原ならではの希少な植物を見ることができます。池ヶ原湿原の特徴は、ミズチドリやカキラン、トキソウなどラン科の花が多いことです。

また、オオミズゴケのじゅうたんの中には、食虫植物のモウセンゴケも見ることができます。



レンゲツツジ (見頃は5月~6月)



貴重な湿地植物のミスチドリ (見頃は6~7月)



5月から9月にかけて様々な花が咲きます。見頃は多くの花が咲く7月です!

自然観察会に参加すると、自然観察指導員から花の名前やその由来、形などの特徴について、教えてもらうことができます。じっくり観察することで、きっと新しい気づきに出会えることでしょう。

湿原の魅力を守りつづける

平泉寺小学校では、湿原での自然観察会をとおり、湿原の大切さを学び、ヨシ刈りなどの保全活動も行っています。



勝山市は九頭竜川や白山など自然の恵みを受けながらまちづくりが進められてきました。地形的な視点から歴史や文化、食べ物を知らないとこれまでと違った景色が見えてきます。

また、なぜ坂の名前が「おたね坂」なのか? などその由来などをご紹介しますながら楽しくガイドを行っています。



伏流水(地下に浸透した水)が湧き出る大清水

受け継がれる勝山左義長

300年以上の歴史を誇る勝山左義長は、櫓を持つ地域の方や勝山左義長ばやし保存会の方を中心に伝統が継承されています。



河川の浸食と堆積、土地の隆起や気候変動がくりかえされ形成された河岸段丘

まちなか



七里壁

勝山のまちなかには、七里壁があります。ただの石垣としか見られないこともありますが、どのようにできて、どのようにまちづくりに活かされてきたかという視点で見ると、新しい気づきがあり面白がでてくるとおもいます!



村岡山は、来年合戦から450年を迎える古戦場です。戦国時代に大きな勢力を築いていた平泉寺との対立で、村岡山に山城を築いた一揆勢が勝利を納めたことから「勝ち山」と呼ばれるようになりました。これが、勝山市の名前の由来となっています。



山城の跡

地域に愛される村岡山

村岡山は、「まちづくり・むろこの会」をはじめ地元の方が定期的に整備をすすめ、大切に守られています。



大地の隆起や川による浸食などでできた「勝山」由来の地形

村岡山

一年を通して、市街の風景と山城ならではの遺構を楽しめます。特に、3月下旬から4月下旬にかけては山城の遺構が確認しやすいだけでなく、桜と残雪が輝く山々の風景が美しいので、ハイキングにおすすめです。



山頂からの景色(ドローン撮影)

